

— 次の問いに答えなさい。(二十点)

問 — 線部のカタカナを、それぞれ漢字で答えなさい。

- ① a 絶好のキカイを逃す。
b キカイ体操の選手。
- ② a トクイな教科は国語です。
b トクイな形状の巻き貝。
- ③ a 疑うヨチはない。
b 地震をヨチする。
- ④ a 友人の意見をシジする。
b 著名な書道家にシジする。
- ⑤ a 品質をホシヨウする。
b 安全をホシヨウする。

問 — 線部の敬語表現を〔例〕にならって、それぞれ敬語を用いない形にもどし、言い切りの形で答えなさい。

〔例〕 美術館で特別展示を「覧」になる。 〔答〕 見る

- ⑥ 先方の意見をうかがう。
- ⑦ 二日後にお店へうかがうつもりです。
- ⑧ 十分前から玄関にお客様がいらつしやる。
- ⑨ 十分後に家へお客様がいらつしやる予定だ。
- ⑩ 冷え込むので暖かいものをお召しになるほうがよい。

問 — 線部の言葉を本来の表現に直し、それぞれ答えなさい。

- ⑪ 飛ぶ鳥跡を濁さず
- ⑫ 的を得る
- ⑬ 揚げ足をすくう

問 次の慣用句とほぼ同じ意味の言葉を、次のア～カの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ⑭ 目から鼻に抜ける
ア 残念 イ 上達 ウ 利口 エ 感心 オ 実行 カ 予感
- ⑮ こしを上げる
オ 実行 カ 予感
- ⑯ 舌を巻く

問 季節に関する次の会話文の [17] ～ [19] には漢数字を、 [20] には適当な文をそれぞれ答えなさい。

- A まだまだ寒いのにどうして年賀状には「初春」と書くのかな？
- B そうだね。昔の暦こよみは今の暦ちがと違っていたんだ。年賀状というのは、昔の暦の季節に従っていて、春は [17] 月から始まるんだよ。
- A なるほど、そうだったんだ！
- B じゃあ、「八月十五夜の満月」を「中秋の名月」と言うのはなぜだかわかるかな？
- A 昔の暦だと、秋は [18] 月から [19] 月に当たるんだよね。
- B そうだよ。だから「七夕」は、俳句の秋の季語になっているんだ。
- A あ、わかった！ [20] から「中秋の名月」と言うんだね。

中でも、血液型性格判断と一致する例を見つけるたびに、「あ、やっぱり、〇〇ちゃんはA型だからそんなことをするんだ」ということ、
ますますあたっていると思ひ込むようになるんだよね。

その逆に、血液型性格判断にあてはまらない行動をしたりする人に出会っても、そうした人の行動をわざわざ血液型に結びつけて考えるこ
とはしない。だから、^④客観的にはあたらぬ場合の方が多くても、主観的には「いつも」あたっていると思ってしまうんだよ。

こうした「思ひ込み」は血液型についてだけじゃなくて、差別や偏見のもとになっている*ステレオタイプについても言えることで、日本
人は何かだとか、アメリカ人にはこういう傾向があるとか、黒人はなんとかだというたぐいのステレオタイプも、そう思っている本人にと
っては、自分の個人的な経験からあたっていると思ひ込んでるんだよ。そういう人たちに、科学的な手続きを使って調べた結果を見せても、
「だって自分の知ってる人は、みんなそうなんだから」といって、考えを変えようとしななんだ。

^⑤さて、ここで言いたかったことは、血液型性格判断に根拠がないのに、たくさんの人たちが信じてしまうってことじゃなくて、血液型性格
判断を信じている人の性格が、ほんとうに血液型性格判断の通りになる場合もあるってことなんだ。このことについては、山崎賢治さんと坂
元章さんという社会心理学者が研究してるんだよ。

山崎さんと坂元さんは、一九七八年から八八年までの間に、血液型と性格特性との関係が強くなってきているという調査データの分析をし
ています。たとえばA型の人がA型の人に当てはまるとされている性格特性を持っていると自分で思っている程度、つまり血液型性格判断が
「あたっている」程度が、一九七八年よりも一九八八年のほうが強くなっているということ。同じことは、別の血液型についても言えるんだ
よ。

ということは、みんなが血液型判断をあたっていると思ひ込むことで、ほんとうにそうした性格特性を知らず知らずのうちに身につけるよ
うになってきたということなんだと考えられます。自分は何とか型だからこういうときにはこういった行動を取るんだよねと思ひ込んで、ほ
んとうにそうした行動を取るようになってしまう。また〇〇ちゃんは何型だから、やっぱりこういう性格なんだねって言われ続けていると、そ
ういう性格を身につけてしまう、ってこと。

こうしたことは血液型性格判断だけだとあまり害はないけど、まわりからの偏見にさらされると、ほんとうにそうした偏見にdオウ
じた考え方をしたり、行動をするようになってしまう可能性があるってことだから^⑥偏見やステレオタイプが予言の自己実現を生み出してし
まうってことには十分に気をつけておかないといけないんだよ。

*注 ランダム⇨偶然にまかせること。

ステレオタイプ⇨考え方が固定的であること。

問一 a s d のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ———線部①から言えることとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 少数で実施した調査は、データに偏りが生じてしまうため意味をなさない。
- イ データ数の少ない場合と多い場合とでは、調査結果の信頼性に差が生まれる。
- ウ どのような集団であっても、調査方法さえ適切であれば結果は信用できる。
- エ 調査には曖昧さが残るため、データ数に関わらず正確な結果は得られない。
- オ 正しい結果を得るために最も重要なのは、適切な調査数に整えることである。

問三 ———線部②とありますが、「統計的には存在しないはずの関係」が「ほんとうにあるように思ってしまう」過程を、わかりやすく説明しなさい。

問四 ———線部③とありますが、筆者は私たちがどういうことを「しない」と言っているのですか。「A型の人はこういった性格の持ち主だ」という情報に接した場合を例にあげて、二つ答えなさい。

問五 ——線部④とありますが、ここで言う「客観的」「主観的」についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「客観的」が同じ血液型のすべての人を意味して用いられた言葉であるのに対し、「主観的」は自分が知っている特定の人物を取り上げようとする個人の傾向を指して用いられた言葉である。

イ 「客観的」が統計的な研究によって導かれた事実を指し示した言葉であるのに対し、「主観的」は自分自身の日常生活における経験から直接的に得た事象を意味する言葉である。

ウ 「客観的」が自分自身の周辺に存在しない人々を意識して用いられた言葉であるのに対し、「主観的」は性格までよく理解している身近な人々を思い浮かべて用いられた言葉である。

エ 「客観的」がすべての血液型において成立する規則性を指して用いられた言葉であるのに対し、「主観的」はある一つの血液型に当てはまる結果を強調しようとして用いられた言葉である。

オ 「客観的」がすべての人に共通する見方であるという意味で用いられた言葉であるのに対し、「主観的」は他者と共有されない自分という個人に限定された見方であることを示す言葉である。

問六 ——線部⑤についての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア これまでに述べてきた内容と対立する考え方をあげ、筆者の立場を明らかにしようとする一文である。

イ これまでに述べてきた内容を否定し、問題の根底にあることの指摘へと踏み込もうとする一文である。

ウ これまでに述べてきた内容を振り返りながら、その具体的な影響へと論を進めようとする一文である。

エ これまでに述べてきた内容を踏まえて、筆者が主張することへと論点を転換しようとする一文である。

オ これまでに述べてきた内容とともに、別の観点から筆者が抱く疑問へと展開しようとする一文である。

問七 ——線部⑥とありますが、このことを筆者はどのように考えていますか、わかりやすく説明しなさい。

問八 本文を読んだ後に、次のような授業が行われました。これを読んで後の問いに答えなさい。

先生「本文の筆者は、血液型性格判断に疑問を感じていましたね。次の資料を読んでみましょう。」

資料 日本で特に人気が高いのが血液型うらな占うらないである。人間をたった四種類の血液型に分類し、それによって人間の性格が判断できるかのよ

うに思わせている。ゲーム感覚で楽しんでる間は何の問題もなさそうだが、実は知らず知らずのうちに信じ込んでしまう危険性がある。事実、*就職のエントリーカードに血液型を書かせる欄らんがあったり、新製品の開発チームに同じ血液型の人間を集めたりする企業きぎょうも出現しているらしい。人を分類して排除はいじょすることによって、人間が持つ本来の可能性を摘み取りかねない。そもそも人間を四種類だけで分別することなんかできないから、血液型に科学的根拠がないことは自明のことである。血液型は細かく分類すれば最低五〇種類はあり、それでは区分けするのは多すぎる。四種類だけに集約することが占いに好都合になっているだけなのだ。血液型を問うことが挨拶あいさつ替わりになり、大手を振って罷り通まかっている日本は、本当に科学・技術を重んじている国なのかどうか疑ってしまう。

*注 就職のエントリーカード＝就職試験を受ける時に提出する書類。

(池内了『疑似科学入門』岩波新書)

先生「本文の筆者は、血液型性格判断そのものよりも、血液型性格判断と同じ構造で起こる」**I**の方を問題視していました。そういう意味では、本文と同じテーマを述べた資料ではありますが、資料の方が血液型性格判断そのものに対する疑問は大きいようです。なぜなら、血液型性格判断を信じ込んでしまうことによつて、**II**と述べているからです。また、資料には本文にはない情報、科学的な見地からの血液型性格判断に対する批判が書かれています。それは、**III**という点ですね。読み取れましたか？では、みなさんは本文と資料とを読んで、どのようなことを思ったか、発表してください。」

ア 私は血液型性格判断って、迷信や都市伝説みたいなもののように感じました。「茶柱が立っていたらいいことがある」などと同じイメージ。もちろん、「茶柱を立ててやろう」なんてことは思わないけど。

イ 僕は血液型性格判断を信じる人が増えている傾向に、現代人の不安や弱さを感じるなあ。自分はこんな存在だっというものが自分ないから、血液型性格判断なんか頼って振る舞うことで安心したいんじゃないかな。

ウ そうだよな。私も科学・技術を重視する企業の人々が血液型性格判断を採用基準にするなんておかしいと思うわ。こういう人たちの姿勢が、日本社会のみんなの日常生活の中にまで行き渡り、血液型性格判断を信じ込ませていったのよ。

エ 僕は血液型性格判断の社会に与える影響なんて、真剣に考えたことがなかったなあ。「A型だから」とか「B型の人は」ってすぐに言う人がいるけど、それってコミュニケーションの方法だと思っていたよ。本気で信じている人がこんなにいるんだ。

オ そうね。血液型性格判断が社会に大きな影響を与えているなんてがっかり。私たちは、情報や流行に振り回されたりせず、自分で正しいものをちゃんと判断する力を持つようにしないとイケないと思っただわ。

(1) 先生の説明中の **I**、**III** に適当な言葉を入れなさい。ただし、**I**・**II** は二十字程度で本文および資料からぬき出し、はじめと終わりのそれぞれ四字で答え、**III** は資料中の語句を用いて四十字以内で答えることとします。

(2) ア、オの生徒の発表のうち、明らかに読み誤っているものを一つ選び、記号で答えなさい。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(五十点)

(出典…宇山佳佑『恋に焦がれたブルー』集英社)

著作権の関係上、掲載を割愛させていただきます。